

平成24年度いしかわ里山創成ファンド事業 採択事業一覧

事業者名 (所在地)	代表者名	実施 地域	事業名	事業概要
---------------	------	----------	-----	------

1 里山里海の地域資源を活用した生業(なりわい)の創出

1	石川県漁業協同 組合すず支所 (珠洲市)	支所運営 委員長 新谷 栄作	珠洲市	里海における資源管理型漁業の 導入による保全と利活用(岩が き)	(現況) ・珠洲市では、水深15mを超える天然の岩礁帯や人工魚礁で、殻の大きさが20cmにも達するような大型 の岩がきが漁獲されており、なかでも殻の表面が綺麗な黄色みを帯びた岩がきを「黄金イワガキ」として PRに努め、観光資源にも活用し始めたところである。 (取組) ・有識者を交えた岩がき漁業管理検討会の開催とその管理体制の構築。 ・潜水漁業技術等に関する研修会の開催や幼生が付着する魚礁表面のクリーニングなど漁場管理作業 の実施。 ・首都圏等への誘客促進のためのPRの実施。
2	エキスパート レーディング株式 会社 (金沢市)	代表取締役 増江 誠一	金沢市	能登ヒバ集成材の販売による能 登ヒバブランド力向上と里山への 仕事還元事業	(現況) ・平成17年に木材の建築資材販売業として創業し、木材資源を原料とする新製品開発および加工・販売 を行う。なかでも集成材の加工販売を得意とする。 (取組) ・構造用集成材に加え、新たに能登ヒバを原料とした造作用集成材の開発。 ・能登ヒバの集成材(構造材・造作材)の販路開拓。
3	有限会社 大根音松商店 (七尾市)	代表取締役 大根 富男	七尾市	能登なまこを利用したスイーツの 商品開発および販売事業	(現況) ・(有)大根音松商店「なまこや」は、能登産なまこによる海産加工業を営んでいるが、一昨年より、なまこ の成分を抽出し、能登の珪藻土と和倉温泉の源泉水を配合した化粧石けんの商品開発・販売に取り組 んでいる。 (取組) ・石川県立七尾東雲高校の学生と連携した「なまこスイーツ」の商品化。 ・その他、なまこの主成分(コーゲン等)を含んだ能登の豊かな食材とコラボレートした商品の試作・開発 と販売。 ・商品のネーミングとパッケージの開発。
4	大野製炭工場 (珠洲市)	代 表 大野 長一郎	珠洲市	お茶炭を中心とした「柞(ははそ) の炭」ブランド化による能登製炭 業の活性化	(現況) ・現在、県内には申請者を含め29名の木炭生産者が「石川県竹炭生産組合連合会」に加盟している。申 請者はその中で唯一の専業の製炭業者で、主にコナラを使った一般木炭ならびにお茶炭の生産に取り 組んでいる。しかし、お茶炭の生産者数は非常に限られており、生産量が十分でなく産地として認知され るに至っていない。 (取組) ・お茶炭産地の商品規格・価格・販売PRに関する資料収集。 ・クヌギを使ったお茶炭の試作品の製造。 ・ブランドデザインの明確化、営業用商品パンフレット等の作成。
5	顔の見える能登 の食材市場流通 推進協議会 (穴水町)	会 長 藤田 繁信	輪島市 珠洲市 穴水町 能登町	山菜、きのこなど能登の里山資源 を活用した魅力ある一次加工品の 商品化	(現況) ・平成21年度から、奥能登の2市2町、4JA等で協議会を立ち上げ、奥能登の多種多様な農林産物を少 量小口の品目であっても金沢市中央卸売市場へ出荷し、消費人口や需要の多い金沢地域の消費者に 安定的に提供する「奥能登直行便」の取り組みを進めている。 (取組) ・山菜の塩蔵品、切り干し大根など、家庭内消費となっていた一次加工品の商品化および販路開拓。 ・コーディネーター、アドバイザーの設置、広域的な一次加工品の生産・販売に関する仕組みづくりの検 討。
6	加賀おしずし 研究会 (能美市)	代 表 中村 均司	能美市	里山・里海の恵みを生かした南 加賀の郷土色「加賀おしずし」の ブランド化促進	(現況) ・白山麓を中心とする南加賀一円には、伝統的な郷土食である独特の押しずしが各家庭で作られており、 ササや柿の葉を仕切りを使うずしは全国でも珍しい。この押しずしの商品化と伝承を支援・促進するた め、「加賀おしずし研究会」が平成24年2月に組織され、各種イベント等への出店・販売などを行っている。 (取組) ・地域内外の顧客に応じた商品・パッケージの開発。 ・地域ブランドとして、学校、社会、教育など地域における押しずし技術の伝承と里山里海資源の再認識 化の推進。 ・パンフレット等の作成とインターネット・物産展等での販売促進活動の実施。
7	金蔵あかり会 (輪島市)	会 長 田中 みなみ	輪島市	地域資源を活かした地産品の商品 開発・発信・新しい販売方法 の創出事業～新しい「金蔵ブラン ド」の創出～	(現況) ・金蔵集落は、古来より、「お寺の文化」と「棚田」により栄えてきた。近年では「里の原風景」、「棚田の里」 ・等でも数々のマスコミに取り上げられてきた。平成23年からは、女性達による「金蔵あかり会」を立ち上 げ、地域資源を活かした商品開発を行っている。 (取組) ・金蔵みそ、金蔵みそ加工品、山菜漬物加工品の商品化。 ・首都圏へふるさと便としてお届けする販売システムの構築。 ・ラベルデザイン・パッケージデザインの製作、商標登録の取得。 ・「お講料理」をベースとした郷土料理(金蔵ご膳)の商品化。
8	金沢市農業 協同組合 (金沢市)	代表理事組合長 上坂 英善	金沢市	金時草を用いた健康飲料の商品 化による花園地区を中心とし た里山の活性化	(現況) ・金時草は、金沢市農産物ブランド協会において、加賀野菜15品目の一つに認定され、地元自治体から も全国へ発信する代表品目として期待されている。 (取組) ・伝統野菜としての消費者イメージを保持した健康飲料青汁の開発。 ・着実な消費拡大とリーダーの確保。 ・金時草の省力・多収栽培法の確立・普及。
9	シンクアドクラ イス 株式会社 (金沢市)	代表取締役 家倉 平八	七尾市	天然湧水と休耕田を利用したド ジョウ、ゴリの養殖技術の確立と その販路開拓および商品開発	(現況) ・七尾市白浜(旧田鶴浜町)で湧き出る水と休耕田を活用して、ドジョウ、ゴリの養殖を検討しており、これ まで、実験池を作成し、養殖のための事前調査を実施している。 (取組) ・天然水と休耕田を活用し、能登に適した養殖技術の実証化。 ・金沢の佃煮加工業者との連携によるドジョウとゴリの加工商品の開発。

1 里山里海の地域資源を活用した生業(なりわい)の創出

10	春蘭の里 実行委員会 (能登町)	会長 中本 安昭	能登町	春蘭の里での耕作放棄地と養蜂を活用したビジネス創出事業	<p>(現況)</p> <ul style="list-style-type: none"> 春蘭の里は、奥能登の純農村地帯が保全されている地区として、H24年3月に県の景観形成重点地区に認定されたが、高齢化による担い手不足から耕作放棄地が増加しており、地区の景観を損なう一因となっている。その再生利用のため蜜源植物の植栽や定置型養蜂の実証に取り組んでおり、今後特産化に向けた本格的な取り組みが必要となっている。 <p>(取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> 蜂蜜を活用した商品づくり。 蜜源植物の品種選定と耕作放棄地への作付けの拡大。 日本ミツバチを活用した交流人口の拡大。
11	すぎ省水産 株式会社 (七尾市)	代表取締役 杉原 省	七尾市	能登産ふぐによる能登地域の活性化	<p>(現況)</p> <ul style="list-style-type: none"> 能登半島沖は、夏期を除き、安定して「ふぐ」が水揚げされる優良な漁場であるが、水揚げされたふぐは山口県方面や都市圏に出荷され、地元ではあまり利用されていない。 <p>(取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> 調理済みふぐの新商品の開発。 大都市圏や金沢からの観光ツアーを旅行会社と共に開発し、新たな魅力「ふぐ」を発信。 お土産、飲食可能店舗を表示したパンフレットを作成。市内の観光業者等に提供して観光客にPRを実施。 地域の観光協会・旅行組合・調理師会と連携し、「能登ふぐ」を盛り上げる活動を実施。
12	農業生産法人 株式会社 スギヨファーム (七尾市)	代表取締役 杉野 哲也	七尾市	能登の里山資源「能登野菜」を活用した商品づくり事業	<p>(現況)</p> <ul style="list-style-type: none"> (株)スギヨは、平成19年に能登島の耕作放棄地を活用し農業参入し、平成24年3月に農業生産法人(株)スギヨファームを設立し、キャベツ、タマネギ、ニンジン等利用度の高い野菜のほか、能登の風土をいかした「能登野菜」も栽培している。 <p>(取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> 加工企業と連携し、半加工品を利用した能登野菜パン、カステラ、せんべいの商品開発。 「里山」、「自然」、「能登」等をキーワードとして、首都圏・北陸地域の百貨店や地場産直店およびインターネットを通じた販売拡大の実施。
13	高松紋平柿 生産組合 (かほく市)	組合長 森 勇	かほく市	MONBEI元氣プロジェクト～産地の活性化を目指して～	<p>(現況)</p> <ul style="list-style-type: none"> 紋平柿は贈答品をはじめ県内外に出荷されているが、流通ルートにのらない規格外果が多いため、生産者の意欲が減退するとともに農家の高齢化により、紋平柿栽培をやめる農家が出てきている。また、手入れがされない果樹園が果樹産地全体の景観を損ねている。 <p>(取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> 渋戻りせず、色よく、長期間品質保持可能な乾燥柿の大量製造技術の開発。 乾燥柿の加工利用方法の検討と商品開発。 加工業者や消費者への乾燥柿の試験販売。 農業体験、加工体験の実施。
14	NOTO高農園 (七尾市)	高 利充	七尾市	能登島赤土野菜を五味で感じる。～能登ブランドを首都圏に発信！！NOTO発ミシュラン～	<p>(現況)</p> <ul style="list-style-type: none"> NOTO高農園は平成12年に環境に配慮した野菜づくりを目指し、能登島に農場を開設。同年に石川県認証のエコファーマーを、平成14年にはJAS有機認証を取得し、有機野菜・エコ野菜として各種の野菜を販売し、現在では年間250品種を作付け、5割以上を首都圏へ出荷している。昨年より耕作放棄地約5haで能登野菜を栽培している。 <p>(取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> NOTOいしかわフェアの開催による首都圏レストランでの能登食材の知名度向上。 野菜の出荷だけでなく、1次加工・2次加工商品の開発。
15	有限会社 能登ワイン 夢一輪館 (能登町)	代表取締役 高市 範幸	能登町	能登里山・里海の恵み商品開発事業 ー世界農業遺産に認定された能登からの贈り物ー	<p>(現況)</p> <ul style="list-style-type: none"> 能登町は、能登鮭や能登牛、能登豚、能登山菜などの豊かな里山里海資源に恵まれている。これらの資源については、それぞれの業種で独自のブランド化が進められている。一方、世界農業遺産の認定や新幹線の開業により、能登を訪れる観光客の増加が期待される。 <p>(取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> 能登を代表する生産物(能登牛、能登鮭、能登蕨、能登豚)を原料にした昆布巻きとギフト商品の開発および販路開拓。
16	山木食品工業 株式会社 (小松市)	代表取締役 山木 朝恵	小松市	安宅漁港の水産物を活用した「安宅の関」ブランド商品の開発・商品化・販路開拓事業	<p>(現況)</p> <ul style="list-style-type: none"> 山木食品工業株式会社は、明治38年に創業し、「厳選した良質な大豆」「食品添加物などを使用せずじっくり熟成させた手づくり」にこだわった加賀みそづくりを一貫して行う。平成22年の1人当たりのみそ購入量は、平成4年の約8割程度に落ち込んでいる。 <p>(取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> 安宅漁港で水揚げされる「イカ」、「あずき貝」、「アサリ」、「アジ」、「カレイ」等を具材としたフリーズドライみそ汁とおかずみその開発・商品化。 安宅の関ブランド化のための包装デザインの作成。 開発商品の販路開拓。
17	湯涌かぶら 利用拡大協議会 (金沢市)	会長 安藤 喜代子	金沢市	特産野菜「湯涌かぶら」の生産振興と魅力的な商品づくりによる耕作放棄地の再生及び伝統的農業の体験やまつりなど文化的交流活動や里山の魅力発信による湯涌地区の活性化	<p>(現況)</p> <ul style="list-style-type: none"> 藩政期の古文書に残る特産品「湯涌かぶら」を地区活性化のシンボルにすえ、戦後、種の継承が途切れてしまった「湯涌かぶら」を復活させ、湯涌温泉の旅館等の観光業者と農業者など、地域が一体となって、その特産品開発を行っている。 <p>(取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規栽培者の発掘。 「湯涌かぶら」の機能性成分や未利用部位(葉)を活用した新たな加工品やセット商品の開発。 地元中学生の農業体験学習や生産者との交流や、観光客へのPR、情報発信。

2 里山里海地域の振興(イベント支援)

18	上黒丸ステキな 散歩道実行委員会 (珠洲市)	委員長 池ノ上 章	珠洲市	里山資源と伝統文化を活用した地域づくり～上黒丸ステキな散歩道 ウォーキングイベント～	<p>(現況)</p> <ul style="list-style-type: none"> 珠洲市上黒丸地区は、10集落で構成されており、ブナの原生林が広がる宝立山や棚田、歴史を感じさせる古民家が多く点在する地区である。また、「幻の滝」「あえのこと」など、四季折々の美しい景観や食材、伝統文化などの地域資源が多く残っている地域である。 <p>(取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修・勉強会により散歩コースの開拓。 年6回のウォーキングイベントの開催。 里山資源や伝統を受け継ぐ若者や「里山案内人」の発掘と育成。 里山保全活動に関する理解を持った里山ボランティアを募集し、散歩コースの周辺整備や里山保全活動の実施。 上黒丸ステキな散歩道基金の創設。
----	------------------------------	--------------	-----	--	---